

# 昭和村義務教育学校施設設備基本構想（案）

## 目次

### はじめに

- (1) 昭和村の情勢
- (2) 小中一貫教育が求められている背景・理由

教育のソフト面として  
協議していく内容

### 第1章 昭和村の義務教育学校による小中一貫教育の推進

### 第2章 義務教育学校の特徴

- (1) 小中一貫した9年間の教育課程編制
- (2) 発達段階に配慮した新たな教育課程編制＝学年の区切り
- (3) 長期的に積み上げていく資質・能力・態度育成の強み
- (4) 小・中教員の専門性を生かした教科担任制の導入
- (5) 学習内容や学習時間を、9年間の中で柔軟に対応
- (6) 特別支援教育の充実〈学びの連続性を生かせる生かして〉
- (7) 望ましい生徒指導の充実〈成長の連続性を生かせる生かして〉

### 第3章 昭和村の児童生徒数の現状と今後の見込み

### 第4章 昭和村の義務教育学校の予想規模

### 第5章 昭和村が目指す義務教育学校

- (1) 基本理念＝目指す人物像
- (2) 教育目標（育成する資質・能力・態度）
- (3) 教育課程編基本的な考え方（学年の区切りとねらい）
- (4) 昭和村義務教育学校（グランドデザイン）

### 第6報 通学手段

- (1) スクールバス料金
- (2) スクールバス利用条件
- (3) スクールバス運行ルート
- (4) スクールバス運行時間帯(下校時)
- (5) 周り順
- (6) 自転車通学

教育のハード面として  
協議していく内容

(次回以降)

### 第7章 学校施設整備の方針

- (1) 健やかな学習・生活空間、柔軟で創造的な学習を実現する施設整備
- (2) 安全・安心を確保できる施設整備
- (3) 地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現する施設整備
- (4) 既存施設の活用について
- (5) 環境に配慮した設計

### 第8章 建設候補地の選定・検討方針

- (1) 候補地の選定基準
- (2) 建設候補地の協議状況とまとめ

### 第9章 校舎開設にかかるスケジュール

# はじめに

## (1) 昭和村の情勢

人口減少の急速な進行やデジタル化の進展等、社会情勢が大きく変化に伴い、住民ニーズも大きく変化してきています。村では、こうした社会情勢や住民ニーズの変化に対応しながら、将来にわたって持続可能な昭和村をつくっていくため、新たな村づくりの指針として、昭和村第6次総合計画を前期基本計画と昭和村第3期総合戦略を一体的に策定しました。

その中で教育行政関係では、以下の項目がクローズアップされています。

- |   |  |
|---|--|
| 1 | 人口減少の加速：「年少人口の減少」                      |
| 2 | 生かすべき強み：文化遺産、子育て環境、郷土愛の強い住民性           |
| 3 | 社会情勢：人口減少、デジタル化、共生・多様性社会、住民参画・協働、SDGs  |
| 4 | 住民ニーズ：子育て・教育の村                         |
| 5 | 村づくりの課題：「特色ある教育行政：小中学校の統合、未来を担う人材の育成等」 |

## (2) 小中一貫教育が求められている背景・理由

### ① 小中学校間接続期の学習指導・生徒指導の違いへの対応（いわゆる中1ギャップ）

小学校の学級担任制から中学校の教科担任制への変化、小中教員間で情報連携・共有の不足、生徒指導内容・方法の変化等→不適應、学力不振が起きやすい

### ② 児童生徒の身体的発達の早まりとその対応+いじめ問題対応

児童生徒の発達は、昭和20年代と比較とすると、2、3年早まっており、発達段階に応じた教育課程の編成が必要→いじめ件数小学校4年5年で上昇、中1で上昇。身体的発達の早まり・不登校の予兆的な様相・いじめの波として留意・対応が必要

### ③ これからの子どもたちに求められる力への対応や教育内容の増加

「エージェンシーを発揮する自律した学習者」の育成には、一時の指導では育成が難しく、一貫・継続された指導・支援なくしては達成できにくい力といえます

### ④ 学校における社会性育成要望の増加とその対応の必要性

社会生活の多様化、地域関係性の希薄さ等→その関係力も育成のため、異学年を含めた多くの児童生徒同士の交流・多くの大人（職員・住民）との交流が不可欠

### ⑤ 小学校の授業時数増加、専門性の必要性増加等

2008年：小学校の授業時数が1割増、2020年：小学校「外国語」教科化、理数教育の重要性増加等→教科担任制度や教員の専門性を生かす必要性増大

# 第1章 昭和村の義務教育学校による 小中一貫教育の推進

昭和村の「子育て・教育の村の実現、小中学校の統合と未来を担う人材の育成、郷土愛育成、共生・多様性社会、地方の自立と住民参画・協働等の実現」の具現化していくことは、「地域・保護者・児童生徒・学校が、昭和村の目指す児童生徒像ビジョン」を共有し、協働しながら一貫して育成していく」小中一貫教育の考え方そのものです。

推進協議会では、「昭和村にとって望ましい学校制度（学校のかたち）」について、視察を含め複数回の協議を重ねました。その結果、「小中学校間接続期緩やかなつながり」、「5年生からの積極的な教科担任制の効果」、「児童生徒の発達段階等を踏まえた学年区切りの効果」、「身につけるのに時間が必要な「自律した学習者」の育成への効果」、「多様な社会性育成の機会創出効果」、「村総合計画との整合性」等の利点を根拠に、推進協議会総意として

『義務養育学校が適切』と判断しました。

その後の地域説明会にて地域の皆様にも理解を深めていただきました。義務教育学校としての理念や目標を、よりよく具現化していくべく、児童生徒、保護者、地域住民、教育関係者の皆さまとともに、地域とともにある学校づくり中、小中一貫教育を進め、子供たちの生きる力を育んでいきたいと考えます。

## 第2章 義務教育学校の特徴

義務教育学校は、小学校と中学校を一体化した一つの学校で、校長は1人、教職員組織も小中で1つです。9年間の連続した計画的・系統的な教育環境及び従来の6-3制度ではなく児童生徒の発達段階に配慮した学年区切りを行い、「小中一貫教育が求められている背景・理由で述べた教育課題」を解決しながら、より教育効果を高めていける学校です。

### (1) 小中一貫した9年間の教育課程編制

1～9年生までの教育課程を一貫して編成します。児童生徒は、多くの職員から継続的で一貫性ある支援・指導を自分のものとしていけるため、学びの質が向上します。

### (2) 発達段階に配慮した新たな教育課程編制＝学年の区切り

昭和村の義務教育学校の学年段階の区切りでは、4-3-2制を提案します。

1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
----	----	----	----	----	----	----	----	----

#### ・小中移行期の不適応(中1ギャップ)を軽減

4-3-2制：現在の児童の発達段階により配慮でき、効果的な教育課程を組むことができます。例えば、5・6・7年を一つの区切りに組み入れることで、従来の小中移行期の不適応(中1ギャップ)を軽減でき円滑な移行の可能性を高めることができます。

#### ・新たなリーダーシップやフォロワーシップの育成(社会性育成要望への対応)

1～9年生まで、様々なねらいにそった異学年交流を実施でき、非認知能力を養う多様な機会を創出し、社会的・精神的な発達効果が期待されます(思いやり・あこがれ・節度・公德心・規範意識・個性の伸長・リーダーシップやフォロワーシップ・よりよく生きる等)。

### (3) 長期的に積み上げていく資質・能力・態度育成の強み

これからの子供たちが身につけていくべき『「自律した学習者」としての力(対話的・主体的で深い学びを求めていく力や姿)、児童生徒自らが授業を企画する力(～する授業)、非認知能力・自己有用感・郷土愛・未来を担う人材としての資質・能力・態度』など、計画的・系統的に積み上げながら身につけていく力の育成に効果的です。(非認知能力：意欲や協調性、粘り強さといった「学びに向かう力、人間性等」のこと)

### (4) 小・中教員の専門性を生かした教科担任制の導入

5・6年生から、小中職員の専門性を生かした教科担任制を導入し、学力向上に繋がります。同時に、従来の小中移行期の緩やかな繋ぎにも効果があります。

### (5) 学習内容や学習時間を、9年間の中で柔軟に対応

9年間の計画の中、つまづきやすい内容には指導時数を増やし、実態に即した指導を行いやすく、確かな学力の育成に繋がることができます。

### (6) 特別支援教育の充実(学びの連続性を生かせる生かして)

支援計画等の実践記録や評価を、1つの学校の中で9年間の確実に次学年に引き継げること、また、小中全教職員で当該児童生徒の成長を認識しているため、進級の際、途切れることのない支援や指導の充実、自己実現が図れます。

(7) 望ましい生徒指導の充実〈成長の連続性を生かせる生かして〉

1つの学校組織であるため小中教員間で情報共有しやすく、児童生徒の特性・よさ・課題等に応じるとともに、発達段階に配慮した効果的な生徒指導を継続して行うことができます。

## 第3章 昭和村内児童生徒数の現状と今後の見込み

R13年度 学校別 児童・生徒予想数及び学級数（R7との比較を含む）

令和7年度児童生徒数									令和13年度児童生徒数（予想）・学級数								
中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1
53	69	49	44	57	55	51	45	53	51	45	53	45	31	39	29	31	32
小・中学校特別支援学級(知的障害)在籍予想数→									1	1	1	3			1		
小・中学校特別支援学級(自閉情緒)在籍予想数→									2	2	2	2		3	3		1
小・中学校通常学級在籍児童生徒数予想→									47	42	50	40	31	36	25	31	31
小・中学校通常学級学級数予想→									2	2	2	2	2	2	1	2	2
中全：171			小全：305						中全：149			小全：207 小中全：356					

\*学級編制規則：小学校1・2年は30人で1学級、他学年は35人で1学級。特支学級在籍児童生徒数予想（国：全体の6～7％）小学校  $207 \times 0.06 = 13$  人（知的障害4人・自閉情緒9人）。中学校  $149 \times 0.06 = 9$  人（知 $\wedge$ 人・自 $\wedge$ 6人）で計算。特支学級児童生徒の学年所属は、通常学級のクラス数が減らない学年に配置。

## 第4章 義務教育学校の予想規模

学校の教職員の配置数は、学級数により、「小・中学校教諭配当基準表」に従い配置されます。義務教育学校の教職員数は、小学校配置数+中学校配置数の合算で配置されます。「R13年度児童生徒予想数・学級数から想定した配置教員数は以下のようになります。

<b>R13 想定：昭和村義務教育学校の予想学級数</b>	
小学校：通常学級 11 学級、特別支援学級 3（知的1+自情2）	14 学級
中学校：通常学級 6 学級、特別支援学級 2（知的1+自情1）	8 学級
<b>R13 想定：昭和村義務教育学校の予想規模（教職員配置予想）</b>	
校長 1 + 小教頭 1 + 中教頭 = 3	
授業者 = 学級担任 14 + 専科教員 2 + 教科担任 14 = 30	
養護 2（開校年度） + 事務職員 1 = 3	総計：36 人配置（特配を除く）

# 第5章 昭和村が目指す義務教育学校

## (1) 基本理念＝目指す人物像

『郷土愛にあふれ、次世代を担う、「自律した学習者」の育成』

## (2) 教育目標 (教育理念達成に向けた育成する資質・能力・態度)

**自律**：自分の可能性を信じ、自ら考え、判断し、行動していく児童生徒  
**共生**：多様性を認め合い、地域・他者等と協働しながら、ともに伸びていく児童生徒  
**創造**：時代を見据え、新しい価値（観）を創造していく児童生徒  
**健康**：健やかな心と身体を維持・増進していく児童生徒

## (3) 教育課程編制の基本的な考え方 (学年の区切り 4-3-2 とねらい)

区分	前期(45授業) 1年～4年	中期(50授業) 5年～7年	後期(50分授業) 8年・9年
課程	人としての基礎・基本を体験的に培う課程	思考力・判断力・表現力を高めていく課程	社会をみつめ、自らの生き方切り拓いていく課程
自律・創造	・「人・もの・こと」との出会いに興味・関心を膨らませ、豊かな体験を通じた思考力・判断力の基礎を身に付け臆さず表現する児童。	・基礎的な知識・技能の定着を図り、既習事項を生かした思考力・判断力を身に付け、自分の考えを主体的に表現する児童生徒。	・定着した基礎的な知識・技能を活用し、課題解決に向かう思考力・判断力・表現力を高め、新しい価値を主体的に創り出していく生徒。
共生・創造	・体験活動を通して、友達と仲良く遊んだり助け合ったりしながら、望ましい人間関係を築いていく児童。	・周囲(同異学年・地域等)の人の特性(よさ・多様性等)を受け入れ、理解し合い、適切な人間関係を築いていく児童生徒。	・人々の幸せを願い、物事を多面・多角的に捉え、地域や友人とともに、課題解決に向かって新たな価値を創り出す行動ができる生徒。
健康・創造	・基本的な生活習慣と健康で安全な生活との関連を理解している児童。 ・各種運動の特性を理解して、進んで運動に親しむ児童。	・心身の健康のために必要な事柄(ルール・モラル・マナー)を理解し、進んで健康で安全な生活を送る児童生徒。 ・目標に向かって粘り強く運動に取り組む児童生徒。	・生涯の健康のために必要な知識を身に付け、主体的で健康な生活を創り出していく生徒。 ・主体的に運動に取り組み、生涯を通じて運動の喜びを味わっていく生徒(地域クラブ等の参加を含む)。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期 1年生～4年生。担任指導。体験・体感の重視。</li> <li>・中期 5年生～7年生。5・6年生から可能な限り教科担任制を導入し、教科の特色を踏まえたより専門性の高い指導を展開(小・中両教諭の専門性を発揮)。</li> <li>・後期 8年生～9年生。完全教科担任制。自ら課題解決に向かい、思考力・判断力・表現力をより高め、新しい価値を主体的に創造していく姿勢・態度重視。</li> </ul>		
特色ある教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 小中一貫教育のよさを生かし、学びの連続性の重視し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的・系統的に進め、「自律した学習者」の姿を具現化します。</li> <li>イ 地域学習とキャリア教育の融合(生活科・総合的な学習の時間＝郷土学習)を図った9年間の系統だった指導計画により、昭和村らしい学びを实践し、郷土愛に溢れた次世代を担う人材を育成します(地域とともにある学校・地域は大きな教室・コミュニティスクール・地域学校協働活動等)。</li> <li>ウ 外国語教育の充実(ALT配置、小学校英語専科制度、米国(イギリス)相互海外交流の充実、英検補助)</li> </ul>		

(4) 昭和村義務教育学校 (グラントデザイン)

